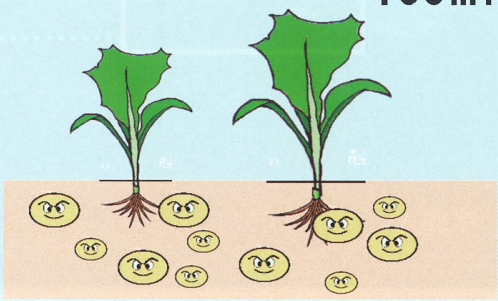
微生物土壌改良材

共生菌 A-300

100ml



期待される効果

① **作物生育の健全化**
② **連作障害物質の分解**

微生物の種類

イチゴの根から分離したバークホルデリア属細菌（生菌体）です

「バークホルデリア属細菌」が作物にすみついて⇒作物の生育を健全にします

「バークホルデリア属細菌」が土にすみついて⇒土壌中の連作障害起因物質を分解します

ご使用をお勧めする作物：野菜全般、切り花全般、鉢花全般

イチゴ、トマト、ナス、セルリー、レタス、キュウリ、ホウレンソウ、サトイモ、チンゲンサイ、ダイコン、コマツナ、アスパラガス、スイカ、キャベツ、ニンジン、シクラメン、カーネーションなど

苗処理方法

２回処理（1 回目：本葉展開直後　2 回目：1 回目散布の 1～2 週間後）

「共生菌 A-300」1 袋(100ml)を 10a 分の苗に散布して下さい。セルトレイの場合は 100～200 倍に、ビニールポットの場合は 500～1,000 倍にうすめて散布して下さい。

例：「共生菌 A-300」1 袋（100 ml）を 20L にうすめてセルトレイ 1 枚当り 500ml を散水した場合 40 枚のセルトレイに施用出来ます。

本圃処理方法

（1 回目：定植時　2 回目：定植 2 週間後　以降月 1～2 回）

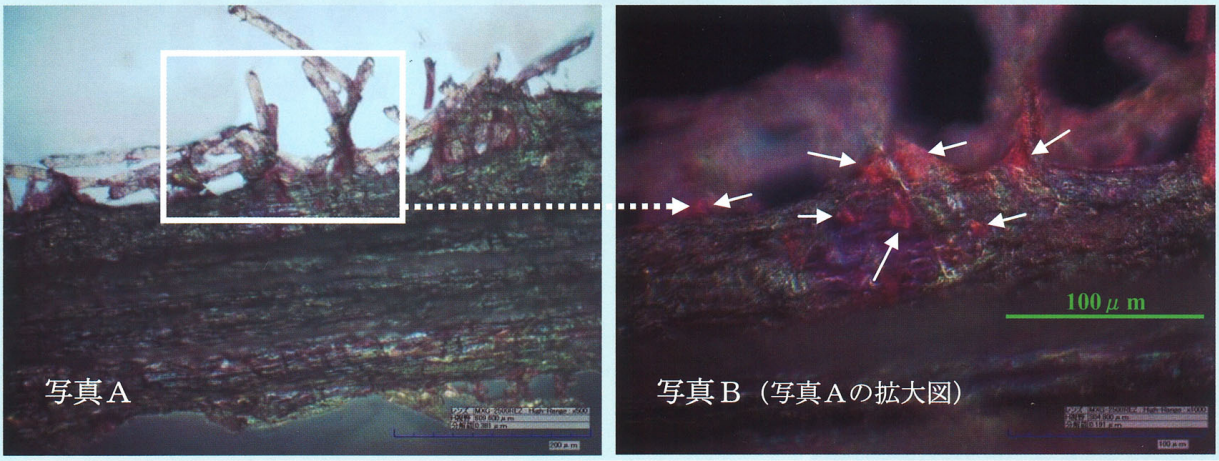
・「共生菌 A-300」1 袋(100ml)を 1,000 倍にうすめて潅水又は散布して下さい。

・直播の場合は播種直後および本葉展開直後に散布して下さい。

イチゴ、トマトなどの長期採りの作物の場合や極端にストレスのかかる作型の場合は月 1 回から 2 回定期的に散布するとより効果的です。

製造元：株式会社　松本微生物研究所
〒390-1241　長野県松本市大字新村 2904
TEL0263-47-2078　Fax0263-47-7636
URL：http://www.matsumoto-biken.co.jp

特徴①　作物への定着性が高い



写真Ａ　　写真Ｂ（写真Ａの拡大図）

バークホルデリア菌を接種して育てたイチゴ根の顕微鏡観察（写真Ａ）。赤く染まっているのがバークホルデリア菌（写真Ｂ　矢印）。

特徴②　多種類の連作障害物質の分解が可能

「共生菌 A-300」は以下の連作障害物質を分解します

連作障害物質	影響を受ける主な作物
安息香酸	キュウリ、トマト、サトイモ、イチゴなど
サリチル酸	スイカなど
m-ヒドロキシ安息香酸	サトイモなど
p-ヒドロキシ安息香酸	レタス、ダイコン、キュウリ、トマト、サトイモなど
プロトカテク酸	アスパラガス、ニンジン、トマト、レタスなど
バニリン酸	レタス、ダイコン、ダイズ、トマト、サトイモなど
ゲンチジン酸	トマトなど
2,4-ジクロロ安息香酸	キュウリなど

ご使用上の注意点

※冷蔵庫(約 4℃)で保管し、製品が届いてから 6 ヶ月以内に使用して下さい。
※菌体が沈殿する場合がありますが効果に影響はありません。よく振って、希釈して下さい。
※製品中で微生物が生きています。殺菌剤,強アルカリ強酸資材との混用はできません。
※殺菌剤を使用する場合は 3 日以上の間隔をあけてから本製品を使用して下さい。
※開封後は残さずに使い切ってください。もしやむを得ず使い残しが出る場合は、雑菌が入らないように開封口をしっかり閉じ、冷蔵(約 4℃)保管して下さい。
※安全性の高い製品ですが、小児の手の届かない所に置いて下さい。

・　本表記載の内容は 2014 年 7 月現在のものです。
・　製品改良などのため、製品仕様を予告なく変更することがありますので、予めご了承下さい。